

ながくて COOL CHOICE 連続セミナー

第2回セミナー報告

日時 平成30年10月20日(土) 午前10時から午前12時まで

場所 西小校区共生ステーション会議室

講師 (公財)豊田都市交通研究所研究部次長：山崎 基浩(やまざき もとひろ)氏

中部大学中部高等学術研究所研究員：原 理史(はら まさし)氏

参加者 8人

10:00 開会

司会 野上主事

あいさつ 富田課長



セミナー開始

原理史講師自己紹介の後、パワーポイントで簡単に説明地球温暖化問題の現状を説明し、山崎基浩講師を紹介し引き継ぐ。

暮らしとエコ交通

(公財)豊田都市交通研究所及び自己紹介

- ・平成3年3月に設立し、都市交通に関する調査、研究を行っている。
- ・豊田市、トヨタ自動車(株)、損保会社の出捐による愛知県認可の公益財団。
- ・役割：広義の都市交通の研究、交通まちづくりの推進、世界への情報発信と研究
- ・研究員10名、事務系職員等7名で運営している。

山崎講師は、愛知工業大学及び名古屋市立大学の非常勤講師、弥富市及び知立市の地域公共交通会議等委員、ひまわりネットワークの「地域ジャーナル」のコメンテーターをされている。

「交通」とは何か

人は生活の中で何かの目的を達成するために、場所を移動する。それが交通です。

都市交通のさまざまな問題

クルマ社会がもたらした交通問題：排気ガス、渋滞、事故、公共交通機関の衰退、公害などがあります。

なぜこんな交通問題が発生した？

- ・技術革新→産業の発達→経済の成長→都市の発展→交通の発達
- ・自家用車の普及→モータリゼーション
- ・便利になったが、社会構造に変化をもたらしました。



交通（人の動き）の現状は？

S46年から10年ごとに年々増加していたが、H13年からH23年にかけて2%減少しています。ネット通販等による人の移動が減少したものと考えます。

交通手段を見ると、東京、京阪神の都市圏では鉄道、バスの利用が多く、自動車の利用は約30%に対して、中京圏では自動車の利用が約60%となっています。

1日の人の移動は、通勤通学の午前8時前後が一番多く、次いで帰宅する午後5時前後となっています。

交通死亡事故は、昭和45年の16,765人（交通戦争）から減少しているが、平成29年は3,694人でした。

最近では、高齢者の事故、幅員の狭い生活道路での自転車事故が多くみられます。

地方での公共交通が衰退しています。豊田市の例により、昭和55年と平成13年を比べると乗り合いバスの路線が大幅に減少しています。公共交通の利用が減少傾向のあり、結果路線も減少してきています。これに反して、2000年頃から自治体が運営するコミュニティバスが増加しています。

公害問題は地球環境問題

運輸部門のCO₂の排出量は、日本全体の約17.9%であり、運輸部門のうち自家用車の排出量は、46.1%です。運輸部門全体のCO₂排出量は、2001年をピークに減少傾向にあります。

1人を1km運ぶのに排出するCO₂は、鉄道は20（g-CO₂/人キロ）、バスは67、航空は98、自家用車は141となっています。車両側の対策として、エコカー及び超小型自動車の開発、普及、エコドライブの実践をする、交通需要の対策として、総量（長距離）を減らす、他の交通手段を利用する、コ

コンパクトなまちづくりをする、交通流の対策として、渋滞か所の道路や交差点を整備する、混雑時に走らない、コンパクトな施設配置が必要です。

都市交通施策のパラダイムシフト

需要と供給のバランスが崩れて交通問題が発生します。従来の需要追従型（需要が増えるのに合わせて供給していく）を需要管理型にしていく必要があります。

※需要管理型：需要発生源の調整、手段の変更、経路の変更、時間帯の変更、自動車の有効利用

「エコ交通」実践を推進するために

MM（モビリティ・マネジメント）とは

過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを「かしこく」使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人や組織、地域などを対象としたコミュニケーションを中心とする持続的な取り組みです。

みんなに良いこと

- ・運動量が増えてカラダに良い
- ・意外と快適
- ・新たな発見がある
- ・時間の有効利用ができる

これにより、社会全体、地球環境をよくしていく

- ・道路渋滞が緩和される
- ・交通事故が減る
- ・公共交通の維持につながる
- ・温室効果ガス排出量が減る



チャレンジ ECO 通勤

豊田市における取り組みの紹介

5日間マイカーから自転車、鉄道、バスへ、またはマイカーと鉄道の組み合わせ、出勤時間をずらすなどで通勤する取り組みをしました。

結果：CO₂排出量は、約 2.1 t から約 1.5 t に削減、削減率が平均 26.3%、歩行数は、男女平均で 1.38 倍に増加しました。

- ・実践してみたところ健康問題への意識が比較的高まった。

- ・最初のきっかけは「環境」、継続するには「健康」という個人的メリットが大切。
- ・「健康」を重視する人は、徒歩や自転車を積極的に使う。
- ・環境、健康の両面で効果的

環境にやさしい自動車（次世代自動車）の開発・普及

種類紹介

- ①燃料電池自動車
- ②電気自動車
- ③天然ガス自動車
- ④ハイブリッド自動車
- ⑤プラグインハイブリッド自動車
- ⑥クリーンディーゼル自動車



小型電気自動車シェアリング

最寄りの駅から職場への移動などに利用します。

COMS（トヨタ）、PAS（ヤマハ）

まとめ

- ・ムダな「クルマ利用」を減らしましょう！
その移動には、どうしてもクルマでなければならないか？
歩くことは健康に良い！
- ・みんなで取り組んでみてはいかがでしょうか？
エコ交通に対する共通認識と「頑張ろう！」とうい連帯感
Nバス、リニモは「長久手の交通シンボル」と愛着を！
- ・最新のクルマは魅力的！

質疑応答

なし

講義の後、交通ゲームを行い「クルマと電車、どっちがいい？」を行い、電車による移動が、早いという結果で終了した。